

海洋プラスチックごみが含有する有害化学物質の特性評価を行い、多様な海洋生態系への影響を評価する

1. 事業目的

全球プラスチック循環モデルを構築し、将来（50年程度先まで）のマイクロプラスチック浮遊量を推算する。これを参照しつつ、海洋生態系への影響の評価を実施する。さらに、モニタリングの高度化やモデルの精度向上を可能とする、海洋プラスチックごみをモニタリング・計測する標準的な手法を提示する。

2. 事業内容

①地球規模での海洋プラスチックごみ輸送過程のモデル化、将来予測

将来的な海洋プラスチックの分布密度やそれによる影響を予測するための精度の高い予測モデルを開発する。

②マイクロプラスチック及びそれが含有、吸着する有害化学物質の海洋生態系への影響評価

マイクロプラスチックに含有される、または吸着する化学物質の海洋環境中への溶出や、吸脱着の状況を明らかにするほか、化学物質を含有、吸着する性質を有するマイクロプラスチックが生物に与える影響、海洋生態系への影響を評価する。

③海洋プラスチックごみのモニタリング、計測手法等の高度化

マイクロプラスチックを含む様々な大きさの海洋プラスチックごみのモニタリング、計測手法の高度化と海底堆積物中の計測技術の高度化を図る。

3. 事業スキーム

- 事業形態 競争的資金制度による交付（環境再生保全機構が配分）
- 交付先 大学
- 実施期間 平成30年度～令和2年度

4. 事業イメージ

